

9. 京都橘大学

テーマ	共に歩む課題解決	
発表代表者	山本 博:京都橘大学 情報システム課・課長	
連名発表者		
キーワード	伴走支援	ほどく・共感する
	良質な問い立て	文化人類学的アプローチ
発表の概要	<p>「パフォーマンスは関係性から生まれる」という考えのもと、教務課との対話から始まった伴走による課題解決の試みは、学生支援や人事課など計 7 課へと広がった。伴走を通じて職員は自走し、これまでできなかったことに挑戦できる効力感を得た。これにより、苦手分野でもモチベーションが高まり、取り組みサイクルが加速している。私たちは「つくる・届ける」にとどまらず、「ほどく・共感する」ことから始めることで、課題を対話的に整理し、最適な設計を模索し続けている。このプロセスで AI を多用しその効用を実感したが、取り組みの結果の質は、いかに良質な問い立てができていくかによって大きく左右されることにも気付かされた。この経験から、文化人類学的視点を取り入れた研修開発に至っている。本発表では、この一連のプロセスを紹介する。</p>	